

# 事業のタネシート

活動地域・団体名： 株式会社アースカラー

事業名称 1： デジタル地域通貨でのベーシックインカム配賦システム「七福神」  
～「第2の公」となる脱炭素 x 地域自治モデルの創出～

## あらすじ

現状の市場経済では評価しきれない岩手県独自の地域自然環境や地域社会に対する貢献価値を拾い上げ、地域通貨にてベーシックインカムとして社会価値・環境価値を提供する事業者へ収入補填し、地域にグローバル市場経済とは別の独自経済圏を構築する。決してどちらか一方の経済圏だけに依存するのではなく、バランス良く両輪を回すことが地域の自主自立となり、過疎農山漁村を再生する汎用性の高い処方箋となる。そして、それすなわち現在のグローバル資本主義一辺倒の社会経済を修正するモデルとしたい。

## ストーリー

（課題）人口減少に歯止めがかからず地域活力が低下している。

（取組）岩手県独自の地域の自然環境や地域社会に対する貢献に対して価値を付加する新しい仕組みを生み出し、事業者のためのベーシックインカムを提供する。事業者の取組みを評価し、可視化することにつながり、地域通貨で提供することで経済の地域内循環が実現する。地域通貨では地域での再生可能エネルギーを購入できるスキームを構築する。

（ありたい姿）事業者が報われる経済システムによって地域に活力が生まれ、内外に地域の魅力を再評価・再発信することになる。地域の中で社会価値、環境価値の高い事業が生み出され、移住者や企業者が増え、過疎化する農山漁村の再生モデルとして注目される。

## 事業の骨子

## 現時点で想定される 課題・ボトルネック

①ありたい未来	社会価値、環境価値の高い事業者が地域に無数に生まれ、繁栄する。地域経済が活性化し、移住者や起業者が増え、子供も増える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期開発費用の捻出</li> <li>・Jクレジットにおける新たな地域経営脱炭素量計算システム、可能かどうか？</li> <li>・再生可能エネルギーの購入スキームを構築できるかどうか</li> </ul>
②課題	地域活力の低下、過疎化。事業者減少	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	会計帳簿に表れない社会価値、環境価値を提供している事業者が報われる経済システムを作り、地域の持続可能性を求めた事業者連合を作りたい。	
④地域資源	志のある事業者さんたち。	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	デジタル地域通貨。基準に沿ったベーシックインカムの提供	
⑥担い手（Who）	アースカラーからスピンアウトする財団法人または一般社団法人	
⑦事業で生じる循環	あらゆる地域資源が地域通貨を使用することで地域内循環することとなる。「漏れバケツ」をふさぐことになる。	
⑧事業で生じる成果	社会価値、環境価値の高い事業者が地域に無数に生まれ、地域経済が活性化し、移住者や起業者が増え、子供も増える。	

課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像

Jクレジットにおける本取り組みの脱炭素量などを計算してシステムに組み込める能力を持つ人材、システム開発を行える人材、資金調達を得意とする人材

事業名称 2 : 海藻を活用した普代版循環農業		
あらすじ		
普代村の名産である、昆布やわかめをミネラル肥料とした循環農業（畑や田んぼ）を行い、生産品を普代特産農産物とする。		
ストーリー		
<p>（課題）毎年春先に収穫される昆布やわかめの端材が大量に廃棄されており、廃棄には高額な経費がかかる。普代村茂市地区では農地がまとまってあるが担い手不足により耕作放棄地が増え、道の駅では野菜などの生鮮品が不足している。</p> <p>（取組）普代村の名産である昆布やわかめをミネラル肥料とした循環型農業に取組み、普代村特産農産物を栽培、販売する。</p> <p>（ありたい姿）廃棄される地域の資源を活用する普代村のブランド農業を立ち上げ、耕作放棄地を減らし、循環型農業に関心ある若者が担い手として次々と定住する。</p>		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	普代村の海と山、農地の資源が循環再生産されている未来	ビニールハウスを確保した。冬の長い岩手北部エリアでの農業を確立する。
②課題	寒冷地であるため、ビニールハウスなど、保温施設が必要	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	地場農産物のブランド化による農業振興と廃棄水産物の域内循環を図る	
④地域資源	昆布・わかめなど捨てられている海藻端材 耕作放棄地	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	海藻農法を活用したお米、大豆・小麦、野菜、六次加工品など。村外へ販売しつつ、地域通貨の交換品としても用意する。	
⑥担い手（Who）	アースカラーで採用した地域おこし協力隊やアースカラー社員が中心となり事業を起こし、農業法人を起こす。（山遊農園が主力）	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	海での廃棄物が陸で再利用される。そしてそれが道の駅で販売され、地域の人々が購入する。	岩手県北部での農業者との情報交換。気候変動は激しいため、過去の例は参考にならない可能性がある。全国的な事例の確保。
⑧事業で生じる成果	地域の食料自給率が上がる。耕作放棄地が減る。農業の担い手が増える。	

事業名称 3 : 事業者連合による物販定期便事業 (地域商社)		
あらすじ		
岩手県北部沿岸エリアでの事業者さんたちの商品を集め、毎月例えば5000円などで定期便発送する (中身は季節ごとに最適なものをチョイスする福袋方式)。購入者を主に都市部から集めサブスクリプションサービスとしていく。		
ストーリー		
プラットフォームを続けていくために、事業者さんのメリットを作りたい。事業者さんは売上が増えれば嬉しい。プラットフォームに参画するメリットとなる。販路を当方で確保していくことで、新規に創業する人の商品・サービスも取り扱えば新規起業の応援材料になる。顧客からの声を聴いていくことで地域商品のブラッシュアップにもなっていく。地球のしごと図鑑と連動させ、地球のしごと図鑑の仕事モデルに沿った事業者さんたちの物販を代行する地域商社となる。		
事業の骨子		現時点で想定される 課題・ボトルネック
①ありたい未来	地域事業者の販路が増え、収入が増える	顧客の獲得。いかにこの岩手県北部沿岸エリアの面的なファンを増やすかである。
②課題	顧客の獲得	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	地域事業者の収入増加。プラットフォームへの参画企業増加	
④地域資源	約50社の地域事業者	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	農水産物、加工食品、木炭、木製品など	
⑥担い手 (Who)	アースカラーが事務局として取り仕切る。	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	別の地域通貨事業と連動し、地球のしごと図鑑に沿って地域事業者間が連携し、経済循環が生じる。	現在動いていない「北岩手循環共生圏」の再始動により、横浜市と連携して都市部に訴求するなど。
⑧事業で生じる成果	地域事業者の収入が上がる。地域での起業者、商品開発数が増える。	都市部コミュニティとのパイプ形成が必要となる。